

平成 24 年度 第 4 回文系チャレンジ講座を実施しました

第 4 回文系チャレンジ講座が、2012 年 9 月 19 日、「人・モノの『移動』から見る世界史」をテーマに本学教育福祉科学部の甘利弘樹准教授によって行われました。遠隔配信された大分雄城台・大分鶴崎・大分商業・日田の 4 校(78 名)と、来学した森(33 名)を合わせて、計 111 名の高校生が受講しました。

本日の講座は、“人はなぜ、どのようにして移住するか”ということを確認するところから始まりました。その後、歴史上の出来事が「移動」という観点で紐解かれ、受講生には新たな視点の発見となったようでした。授業は、①16～17 世紀の「世界の一体化」と人・モノの移動、②日本国内の「移動」について展開されました。例えば、大航海時代には銀を中心とした世界的な貿易が行われていましたが、銀の下落を受け、東アジアの国は鎖国で混乱を回避して独自の文化を保ち、欧米は植民地支配へと方針を転換して国力を強化しました。また、日本国内においても、世襲社会が確立した江戸後期、相続にあぶれた若者の人口増や都市部流出が幕末の動乱に影響した可能性などが示され、「移動」の陰に歴史の大きな転換点があるのではないかと示唆されました。

最後には、現代日本の外国人登録者数が提示されました。グローバル化によって産業構造や働き方が大きく変化しています。また、一昨年 of 東日本大震災によって大きな人口変動や流出入を招きました。今、歴史は大きく動こうとしているのでは…、そんなことを考えさせられる講義でした。

受講後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(95%)、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(95%)、「授業内容はわかりやすかった」(90%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(83%)と高い評価結果がでました。特に、「スライドの使用が分かりやすかった(適切であった)」(91%)と高く、受講生が授業に引き込まれていた様子が窺えました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(85%)、「映像はよく見えた」(87%)という良好な受講環境ができていました。

受講生の具体的な声として、「大航海時代の海上ルートのようにすが理解でき、“人の移動”をテーマにしたところに興味が深まった」「新しい考え方を示していただきより深く理解できた」「高校の授業とは異なる視点で、歴史を見つめることができた」「クイズ形式の質問があり、鎖国のこと、現在の国際化の歴史が豊富な資料を使ってわかりやすかった」「ホワイトボードにプリントの解答などを大きく書いていただき理解しやすかった」「先生の声が明瞭で聞きやすく、大学の授業をじっくり落ち着いた雰囲気でも真剣に取り組めた」「先生の真剣さが伝わった」「他校生の意見を聞きながらの授業で、自分の考え方を広げることができた」「資料の活用が大切だとわかった」「また、このような授業を受けてみたい」など多くの感想が寄せられました。人の移動という視点で歴史を見つめることが深まった講座でした。

